

電気通信工事業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物 (小)	事故の 型	労働者 規模
2017	1	8～9	太陽光発電所建設工場の現場内で、太陽光パネルを架台構造物に乗せたあと、ボルト・ナットによる締め付け固定の作業をしているときに、7尺脚立にまたがり1.8mステップに足を乗せた状態で上端ボルトを固定後、下端ボルトを固定しようとしてそのまま前傾姿勢で身を乗り出し、腰を浮かせた際に脚立が後方に転倒し、作業員は脚立の側で転倒し、うつ伏せ姿勢で落下し、両手を強打した。	34	371	1	—
2017	1	10～11	テレビ共同受信施設の木柱にハシゴをかけ既設同軸ケーブルを撤去中に木柱が折れハシゴと一緒に転倒し、大腿骨骨折した。	41	371	1	—
2017	1	15～16	会社敷地内の作業小屋にて、高圧ケーブルに被着を剥く作業中、右手でカッター・左手でケーブルを持って作業していたところ、カッターの刃が滑り、左手親指付け根に接触して受傷した。	24	364	8	1～9
2017	1	15～16	公道において、LED柱の新設工事中に電線の向きを変更するために隣接する木に登って変えようとしたため足を滑らせて下へ落ち体の左側を強打した。	48	712	1	—
2017	1	13～14	従業員が構内でフォークリフトを運転してパレットを移動し、後方を確認せず後退させた時に左後方にいた被災者の右足部分を轢いてしまった。	63	222	7	1～9
2017	1	11～12	既設配線撤去及び盛替工事の最中に、ケーブルが農業機械に引っかかり後方に体ごと引っぱられ落下した。	37	169	1	—

2017	1	1~2	屋外駐車場裏付近において、夜間作業中、取り付した支持金物の水平を確認する為、隣の工事用地に駐車中のトラックまで水準器を取りに行く経路の途中で、幹線トラフから軌道下方の法面に移った際に着地した右足を捻り負傷した。	37	417	2	—
2017	1	14~15	2階部屋内で天井内配線作業を2.1mの脚立を用いて1.8mの高さで行っていた際、作業上部に既設ダクトがあった為、脚立上で壁にもたれかかったの作業体勢で作業を行い、脚立上で体勢を変えたときに脚立を蹴った様な状態となり、脚立が転倒し、作業員が右足より落下した。	20	371	1	—
2017	1	13~14	改造工事現場において、電線の化粧カバーをカッターナイフで切り込み中、カッターナイフが滑りカバーを押さえていた左手親指にナイフの刃が当たり負傷となる（保護手袋着用）。	18	364	8	—
2017	1	17~18	カメラ改修工事において、手すり付仕切り板を乗り越えて作業を行った。作業終了後、再びその仕切り板を乗り越えようとした時、床に自分が置いた腰道具入れがあった為、それを避けようと不安定な体勢で降りた事により右足首を捻った。	37	921	3	—
2017	1	11~12	会社の車庫にて、トラクターの荷台から右側へ降りた際に右足首を骨折した。	35	221	3	10 ~ 29
2017	1	15~16	発電所工事において、整地工事に使用する砕石が足りなくなり、元請の指示により、被災者（下請会社社員）が砕石置場に取りに行くこととなり、ダンプカーで路上を走行中に、センターラインをはみ出した対向車と衝突し、右手・右足・頸部を負傷した。	26	231	17	10 ~ 29
2017	1	10~11	道幅の狭い道路上で、パーカッションオーガにて岩盤掘削中、掘削深度が不足したため、パーカッションオーガに中継ぎ部を取り付ける際、連結ピンを抜いた穴に指を挿入し挟まれた。	43	142	7	50 ~ 99
2017	2	15~16	AG棟GE製造室で高さ3mのケーブルダクトにケーブルを布設する作業のため、脚立（高さ約2.7m）を昇降中に肩足を滑らせて地上に転	63	371	1	—

			落し、腰椎などを骨折した。				
2017	2	11~12	電気給湯機電源工事において、洗面所内分電盤ブレーカー取替の為、3尺脚立の2段目にまたがり作業していたところ、一般住宅内の為、靴ではなく、靴下で作業をしていたので、足を滑らせて脚立より落下し、転倒した。その際に左手をついて左手首を痛めた。	59	371	1	1~9
2017	2	11~12	被災者は、低圧電灯供給工事設計のため現場に到着し、測量調査を開始した。支持物（小柱）が必要のため建柱位置となる土手法上の状況を確認しようとしたところ、道路上から確認できなかったため、法面に少し上がり確認しようとした。一歩目として左足から側溝を跨ぎ、次に右足を跨ごうとした際、突然左足が滑りつま先から側溝に落下し、左足首を捻り転倒負傷した。その後、被災者は歩行困難であったため腹ばいで車輛まで戻り、自ら救急車の出動を要請し、医療機関へ搬送され治療を受けた。	27	711	1	1~9
2017	2	6~7	現場にて夜勤を終え会社の置き場に戻り片付けをしていたところ、立て掛けてあった踏切の遮断機が倒れ右足に当たり右足を負傷してしまった。	53	169	4	1~9
2017	2	11~12	中学校昇降口において屋外時計を点検調査をしている時に、脚立から降りる際に左足を滑らせ、体勢を崩し右肩から地面に転落し頭部右側を強打した。症状は頭部右側頭蓋骨骨折及び頭部右側脳内出血である。	44	371	1	—
2017	2	23~24	電線共同溝設置現場において、掘削作業（深さ1.4m）完了後、配管準備中地山の変化を確認した為、トレンチパイル建て込みを開始した。トレンチパイルを地山に当てた瞬間に舗装片が左大腿部へ落下した。	34	418	4	—
2017	2	2~3	工事指揮者他11名で構内の改良工事中、作業員が軌陸バケット車で鋼管ビーム付近のき電分岐の腕金手直し中、受傷者の補助ロープの取付フックが操作スイッチに触れた為、バケットが回転し、鋼管ビームとバケットに挟まれた。	68	146	7	1~9

2017	2	17~18	防犯灯の交換工事が終わり、脚立から降りようとした時足を踏み外し、バランスを取るために飛び下りた。その時脚立に左足が引っ掛かり左足をひねって落下した。	47	371	1	—
2017	2	22~23	高圧線の埋設工事中、転圧機（ランマー）の燃料がなくなり補給する為、約200m離れた場所に停めてあった軽トラックのライトを頼りに荷台の燃料缶（10?）を取りに行き、現場の灯りを目指して戻る途中ハンドホールの穴に気付かず顔面から深さ1mの穴に落ちた。尚、当日作業開始の時点では、ハンドホールの周りにはカラーコーンとバーを設置しており穴には転落防止の為コンパネを敷設していたが、落下時にはそれらが撤去されており周知されていなかった。暗闇で照明もなく全くハンドホールの穴には気付かなかった。	57	418	1	1~9
2017	2	14~15	一部増強工事で使用する土留しがら材用の丸太を買付け後に丸太を4t車に積んで現場に戻る途中で、左前輪タイヤがパンクしたため路側帯に停車した。助手席の同乗者は直ちに三角停止板を設置するために車外へ出て数台を通過させた。そこへ脇見運転の中型トラックが速度を緩めないまま突っ込んで来て停車中のトラックに衝突した。その衝撃で停車中のトラックが10m程度移動した。同乗者は直ちに被害トラックの前方に回り運転席の運転者を捜したが、キャビン内で発見出来ず、その後トラックとコンクリート壁の間に挟まれた運転者を発見した。停車から事故発生まで2~3分と思われる。	59	221	17	1~9
2017	2	11~12	民家の裏山付近で電柱間に張ってある低圧電線を撤去中、滑落防止対策を施さずに斜面上部で作業中足を滑らせ約3.5m付近から民家の裏庭に滑落し受傷した。	54	711	1	50~99
2017	3	13~14	2階屋上で現場待機中に、被災者が3階ペントハウスに設置してある空中線（アンテナ）の角度を確認しようと後ろ向きに後退した際、パラペットに接触してバランスを崩し、2階屋上から地上1階に転落した。	20	418	1	1~9

2017	3	16~17	会社倉庫で材料の用意をしようとした際に棚に額をぶつけた。	45	419	3	10 ~ 29
2017	3	9~10	会社の倉庫で資材の整理をしているときに電線につまずき転倒した。	25	521	2	1~ 9
2017	3	8~9	会社構内の倉庫側から事務所室内に入るため歩行していたところ、原因は不明だが右足を地面に着いた際に膝が体重を支えられず膝が折れ曲がり、そのまま両足がねじれる様な形で座り込み、左足脛部に自重が強く掛かり負傷した。原因として、右側に杖をついていたため右足と杖のタイミングが合わなかったか、または杖が何かに接触した等が推測される。	59	417	2	10 ~ 29
2017	3	13~14	タイマー盤設置工事の準備を作業場内にて行う際、タイマー盤支持金物を電動丸鋸にチップソー刃を装着し、左手に支持金物、右手に丸鋸を持ち左手を左腿に固定し切断作業中、丸鋸刃が支持金物に噛み、その反動で丸鋸が急激に移動し、左大腿を負傷した。	74	159	8	1~ 9
2017	3	13~14	お客様宅マンション2F廊下にて、高さ約2.5mにあるガスメーターの交換作業をする為に90cm脚立に立って上を向き、パイプレンチでメーターユニオンを水平方向へ締め込めをしている時、首と背中肩甲骨に違和感がありながら作業を続けていたところ、首の痛み・頭痛・めまい・背中肩甲骨痛が生じた。	53	921	19	10 ~ 29
2017	3	13~14	高所作業車バケットへ搭乗し、電線張替工事作業中に、高所作業車バケットから墜落し、山の法面に尻から着地し、道路にずり落ちた。	25	229	1	100 ~ 299
2017	3	15~16	当事業所の資材置場で資材を片付中に、被覆付銅管を整理していたときに資材の上にあがっていた為、その資材がずれてバランスを崩し、足元がぐらつき右手首を負傷した。	43	521	1	10 ~ 29
2017	3	16~17	鉄筋加工場において、電線取替作業中電線被覆を剥いている時、手がすべりカッターで手を切った。	29	364	8	1~ 9

2017	3	18~19	会社の倉庫内で清掃をしている時、二段積みのタイヤを動かそうと持ち上げた時に痛みがはしった。	30	529	19	~	50 99
2017	3	9~10	工事作業のため現場に行く途中、同僚と材料受け渡し場所で1m弱のフェンスを乗り越えようとして、バランスをくずし、前かがみに落ち、左足ひざを強打した。	40	419	1	~	10 29
2017	4	10~11	当日朝から高エネルギー加速器研究機構作業現場において作業を開始し、午前中の休憩時に資材の在庫確認をするため、現場事務所の倉庫に移動し、在庫確認を終え倉庫から退出する際に足元を良く確認せず、段差のある出入口の引き戸に左足首を引っ掛け転倒した。	48	418	2	1~	9
2017	4	16~17	工事現場で片付け作業中、トラック荷台にのっていた発電機（約40kg）を持ち上げ移動させようとした時に体勢を崩し、体をひねって腰部と背中を負傷した。	46	611	19	1~	9
2017	4	18~19	会社倉庫にて脚立での作業中に足がもつれ、右足かかとを負傷した。	43	371	1	~	10 29
2017	4	10~11	神社境内、高所作業車での作業が出来ない場所にて低圧引き込み線張替工事中に、神社の引き込み受点側に梯子を立て掛けていた被災者が落下した。被災者はヘルメットを着用し、安全帯を梯子に取り付けていたが、電線を切断した際にそのまま引っ張られ梯子ごと転倒し、近くの石像に顔面を強打した。	48	371	1	~	10 29
2017	4	10~11	パンザマスト（166kg）をカニクレーンで吊り上げ移動中、ぬかるみでバランスを崩しカニクレーンが転倒した。吊り荷を把持していた被災者がクレーンブームとパンザマスト側面に挟まれ受傷した。	20	212	7	~	10 29
2017	4	15~16	客先地内でスマートメーター取り替え完了後、踏み台（高さ55cm）から降りようとした時に1段目から踏み外して後向きに転倒し、左手首を骨折した。	52	371	1	~	100 299

2017	4	11~ 12	作業終了後、時間が早いので支店で材料整理をしようと移動中に、カメラの無いことに気付いた。首から下げていたカメラを柱上作業中邪魔になり、電柱上にぶら下げたことを思い出し、取りに戻った。2m程度昇柱したところで立木の枝が邪魔になり、左手で振り払ったところ、支持していた右手が滑り、仰向けに頭から落ちた。	55	351	1	~ 49	30
2017	4	12~ 13	足場上で個人住宅のテレビ共聴引き込み工事を済ませ、地上に降りようと建枠を伝って移動中足を踏み外し、下部の交差している足場上に落ち膝を損傷した。	58	411	1	~ 29	10
2017	4	15~ 16	組合管理棟にて換気扇パイプのとりつけ工事中、脚立上で作業をしており、その上から下へ降りている最中に脚立の段差（階段ハシゴ）を踏み外して落下した。体を反転させ地面に手をついたところ、右手首に激痛が走った。	65	371	1	1~ 9	
2017	4	10~ 11	作業員3名で建売住宅（平屋）のテレビアンテナを立てる作業中、テレビアンテナ、アンテナマスト、屋根馬の設定のため、脚立を伸ばして屋根に立て掛けて登っている時、右手にテレビアンテナを握っているが、脚立を登り終えた時バランスをくずして地上に落下した（ヘルメット、安全靴着用）。	62	371	1	1~ 9	
2017	5	13~ 14	本社敷地内に設置してあるコンテナ出入り口にて現場工具等の整理及び準備中に扉が閉まりかけたため、慌てて右手で扉を押えつけたところ右手小指をぶつけた。	30	418	3	~ 29	10
2017	5	14~ 15	被災者は傾斜地で自走式高所作業車（キャタピラー）を使用してラッシング作業を終え、シメラーを取り外そうとして、バケットの位置を変えるため右側へ旋回した時、車体が浮き上がり後方に倒れた。	26	146	1	~ 29	10
2017	5	11~ 12	当社元請工事の工事現場において、太陽光パネルの設置作業（地上から約1.5mの高さ）を行っていた際、誤って体勢を崩してしまい落下し、左大腿部を打撲した。	22	416	1	~ 29	10
			動力計器取替工事中、既設計器取り外し後、新設計器取付作業に着					

2017	5	9～ 10	手し、計器一次側より白相、赤相の順に差し込み、最後に黒相を差し込もうとしたが、黒相の電線が斜めに曲がっていたため左手で計器を少し前方に傾け、右手で黒相電線を持ったまま計器電線挿入口を覗き込んだところ、計器の二次側ビスに電線が接触したと思われる、アークが発生し短絡した。そのアークにより顔面に火傷を負った。	48	352	11	～ 29	10
2017	5	10～ 11	被災者は、事業所の倉庫1階で、この後向かう現場で使用する資材の整理をしていた。同様に2階で資材の整理をしていた作業員が、誤って材料（15×30×20cm）を2階から落としてしまい、それが1階の被災者の背中に当たり肩甲骨を負傷したものである。	31	611	4	～ 29	10
2017	5	11～ 12	6階建てビル屋上より搭屋へ上がる。無線機交換作業を行い、搭屋床面から高い位置（2130mm）にある無線機を交換する作業の準備の為、資材置場から脚立を運搬する。脚立運搬時に該当無線機のあるパラペット付近に進入したところ、体勢を崩し、脚立と共に転落する。	37	415	1	1～ 9	
2017	5	18～ 19	地下2階の電気室にて見積書作成のための電気配線調査中に、支店の派遣社員が倒れた。従来特段体調不良の訴えもなく、業務と発症の因果関係は不明である。	50	999	99	～ 29	10
2017	5	13～ 14	電気設備の配線路点検中に狭い場所を通り抜けようとした際に胸が押えつけられそうになり、通り抜けたところ胸に違和感と痛みを感じた。	33	418	19	～ 29	10
2017	5	15～ 16	工場内倉庫で、床の補修作業中、床を塞ぐため床穴の上に仮止め溶接した鉄板を敷いたが、固定前に鉄板の上に乗る、鉄板が折れ床下に足元から落下し、鉄板の角に頭と首を打ち裂傷した。	23	414	1	～ 29	10
2017	5	14～ 15	ホーム階の断路器室でケーブル管路コア抜きに伴う鉄筋探査作業を行っていた。被災者は座った姿勢で作業を監視しており作業が終了し、その場で立ち上がろうとした際に意識を失い、体が直立したままの状態から転倒し、右顔面を強打した。当時、保護帽	44	999	99	～ 29	10

			を着用し、顎紐も締めていた。				
2017	5	9～ 10	発電所復旧工事の現場で地下2階から地下3階に足場用単管パイプ（2.5m）を手渡しで下ろす作業をしていた。被災者は地下3階で足場用単管パイプを受け取ったが皮手袋から滑り、自身の右足甲に落下させ受傷した。	54	521	4	30 ～ 49
2017	5	16～ 17	普通支線玉碍子上部へのカズラガード取り付けが終了し、玉碍子下部へのカズラガード取り付けのため降柱し、安全帯を外した。下部へ取り付けるカズラガードを運搬車から取り出すため荷台へのぼり、前方に積んでいたカズラガードを片手に抱え、もう一方の手を荷台に掛け、荷台側部から降りたところ、着地面の不整地に足を取られ体勢を崩し、転倒した際に右大腿部を強打し骨折した。	61	221	2	50 ～ 99
2017	5	10～ 11	通信ケーブル敷設工事を実施するため、片側交互通行規制を実施中、第一当事者（被災者）が不足している材料を取りに行くため、西側から道路を横断し東側の民地に駐車していたユニック車に向かう際、左側より歩道を進行してきた第二当事者（相手方）であるタクシーに接触し転倒した。	47	231	17	100 ～ 299
2017	5	8～9	工場内で鉄板（60×240×2400程度）を台車に載せて運搬する作業を行っている時、鉄板を多目に積んでいた（200kg程度）事と台車の中心に置いていなかったため、台車を旋回しようとした際に重心が外側にかかり台車ごと倒れそうになった。2人の作業員のうち1人はすぐさま手を離したが、被災者は防ごうとして手を伸ばした為、鉄板と地面に左手を挟まれた。	28	362	4	1～ 9
2017	5	14～ 15	現場にて消防用設備点検業務誘導灯本体の不良確認の為、本体取外しの際にバランスを崩し脚立より転倒した。	38	371	1	10 ～ 29
2017	5	13～ 14	ケーブルの新設を行う為、ケーブルジャッキを設置しジャッキアップしている際に手が滑り、そのまま後方の川へ転落した。	66	711	1	100 ～

									299
2017	5	11～ 12	テレビ共聴システムの大規模改修工事において、既設ケーブルの撤去作業中、既設木柱に昇柱してケーブルの切断時に木柱が倒壊し、木柱と共に田んぼに倒れ、胸を強打した。	39	351	1			30 ～ 49
2017	6	14～ 15	送電線近接の樹木点検作業中、足を滑らせ滑落した作業員と衝突し、約30m滑落し、顔面と左足踝を負傷した。	43	711	1			10 ～ 29
2017	6	12～ 13	お客様宅にて、電気工事最終確認中に脚立から落下し、右手首で体を支えようとして負傷したものである。	45	371	1			1～ 9
2017	6	14～ 15	部落の外灯を直していた時に、作業が終わり、胴綱を外し降りようとした時、バランスを崩してしまい、脚立が倒れて植え込みの上に着地し、左足を切り、さらに尻もちをつき圧迫骨折をする負傷をした。	63	371	1			1～ 9
2017	6	11～ 12	自社のトラックの荷台上にて、チェーンソーの始動点検を行っていた時に、誤って左手小指がチェーンソーの刃に触れて怪我をした。	47	136	8			1～ 9
2017	6	14～ 15	土地造成に伴う仮設電気工事現場において、仮設ポールを立てるため、鋼管（約6m、重さ45kg）を肩に担いで持ち上げた時、腰に激痛がはしり痛めたものである。	43	612	19			1～ 9
2017	6	16～ 17	電気工事を終え、翌日使う予定の電気工事の材料を受け取り、会社に帰る途中、右折しようとして直進の車と接触後、停車中の車にぶつかり、肋骨、頭部等を負傷した。	49	231	17			1～ 9
2017	6	15～ 16	雑木林にて伐採作業をしている際、梯子に登って周囲の状況を確認する時、降雨により濡れた長靴で足が滑ってバランスを崩し、地面に転落した。	48	371	1			10 ～ 29
2017	6	9～ 10	山道を運搬車で工具・資材を運搬中、運搬車が転倒したはずみで、作業員1名に当たり被災した。	29	711	1			10 ～ 29

2017	7	10~11	電線を固定している紐をナイフで切る時、勢いあまり目に当たり受傷した。	33	364	8	~ 29
2017	7	12~13	自社倉庫にて、片付け作業をしていて、雨上がりで敷石が濡れていたため、滑って転倒して、左足首付近の靭帯創傷した。	31	417	2	1~ 9
2017	7	11~12	農産物加工施設新築現場にて、脚立に昇り高さ1.2mの所でサッシ枠にモルタルを充填する作業を行った。作業が終了し、建物の梁に架けた安全帯を外そうとしたところ、梁にフックが引っ掛かったため、ロープを強く引いたらフックが急に外れ顔に飛んで来て左まぶた上に当たり負傷した。	48	521	6	1~ 9
2017	7	2~3	高圧ケーブル張替作業中に滑材が不足したため、作業を中断し滑材が届く間、車両荷台上の端で待機中に走行してきた乗用車が突っ込んで来たため、荷台中央に逃れる際に荷台の縁に左足の甲をぶつけた。	38	231	17	10 ~ 29
2017	7	2~3	高圧ケーブル張替作業中に滑材が不足したため、作業を中断し滑材が届く間、歩道で待機中に走行してきた乗用車が突っ込んで来て、はねられた。	65	231	17	10 ~ 29
2017	7	16~17	解体工事現場に於いて、建物内の解体作業中、誤って階段で滑り転倒、胸と手足を強打し負傷したもの。	21	529	6	1~ 9
2017	7	15~16	太陽光発電設置現場に於いて、電気配管を移動し埋設する作業中、持っていたつるはしを振りかぶったとき胸に痛みが走った。	23	921	19	10 ~ 29
2017	7	14~15	駐車場棟1階屋外電気室補修工事現場で低温卸売場の天井裏スペースで電気配線作業の指示確認中誤って天井点検口を踏み抜き1階フロアに転落してしまった。	41	418	1	10 ~ 29
2017	7	10~11	当社倉庫内で機材の取り出し作業中狭い通路内で、はみ出た機材を避けようとして、体のバランスを崩し、前のめりして、左手全体をコンクリート床についた。その際、左肘に強い痛みを感じた。	49	417	2	30 ~ 49

2017	7	15~16	木柱の昇柱順練中高さ3.8mからさらに昇柱しようとした時にバランスを崩し滑り落ちた。その際に地上30cm付近に築線してあった電線に首を打ちつけた。直後本人は痛みがなかったが後日になり痛みが出てきた。工事の協力会社で、研修施設で研修中に発生した事故。	22	419	1	10 ~ 29
2017	7	14~15	構内において、碍子の取り外し作業を高所作業車にて開始した。被災者が運転操作し高所作業車のバケットを碍子取り外し位置につ	26	146	7	10 ~ 29
2017	7	14~15	け、同乗作業員が鉄構ビームに金車を取り付けようとしたとき、何らかの原因でバケットが上昇し、被災者がバケットと鉄構ビームとの間に挟まれた。				
2017	7	14~15	仮設養生鉄板をフォークリフト、永磁式リフティングネットを使用し敷設作業中道路の縁石（15mm高）を乗り越えた時、鉄板が揺れて高さ60cmから落下し、鉄板の回転・揺れを抑えていた作業員の足が鉄板下方に位置していた姿勢であったため右足甲部に接触した。	64	521	4	1~ 9
2017	7	7~8	現場宿舎から現場に向かうため6人乗りトラックに5名で乗車し、朝食を購入するため途中でコンビニエンスストアに立ち寄った際、後部座席中央から右側へ降りようとしたところ、先に降りた者がドアを閉めてしまいドアとフレームの間に指が挟まれ右手薬指を挫傷した。	23	221	7	10 ~ 29
2017	7	16~17	会社の駐車場で、車の扉を開けたら、照明器具（20kg、50×15×15cm）が落ちてきて右足の甲にあたり、打撲した。	29	611	4	1~ 9
2017	7	16~17	携帯基地局内で無線機設備設置作業を行っている時被災者が軽いめまいと吐き気を訴えたため、日陰への移動を指示したが、休憩開始直後に嘔吐した。熱中症と診断された。なお、当日は高温の下での作業となるため現場作業員に水分、塩分補給については適時行うように指示していた。また被災者は、当日は主に作業の補助と見学を行っていた。	24	715	11	10 ~ 29
			病院新棟建設工事現場の外部南面地上部の構台上に架台（チャンネ				

2017	7	11~12	ルベース)を取り付けている時に、被災者が頭痛と大量の発汗を訴えた。熱中症と診断された。	33	715	11	1~9
2017	7	10~11	バケット車に搭乗し、電柱上に取り付けてあるPHSアンテナを撤去するため、両手でPHSアンテナを持ち上げようと上部へ押し上げた際、腰部に痛みが走った。	40	921	19	~99
2017	7	2~3	19.8KP付近走行側を規制マニュアル通りに規制作業していたところに中型貨物自動車(4t)(道路一般利用者)が、規制作業にかなりのスピードで追突し規制車(4t車)が大破し、はずみで規制車の斜め前方で監視していた被災労働者に突っ込み、規制車(4t車)と高速道路側壁に挟まれ、被災労働者の下腹部を直撃した。	53	221	17	1~9
2017	7	1~2	高速道路上(走行側)で設備点検のため保安設備の設置中に規制標識車(4t)に一般通行車両の4tトラックが追突し作業員に直撃した。	54	221	17	1~9
2017	7	9~10	工事の現場において、低圧停電準備作業のため、高所作業車で建替柱の既設低圧CVケーブルの縛り紐の切断作業を行っていた。縛り紐の結び目を左で引っ張り、ナイフを押しながら切断していたが切れにくかったためナイフの刃先が手前側に向けて引きながら切っていたところ、縛り紐が切れ、弾みで刃先が左眼に当たり受傷した。	33	364	8	1~9
2017	7	10~11	照明換気設備等改修工事において、脚立に上り照明器具を取り外そうとしていた際に、誤って脚立より転落し、左腕を負傷したものである。	50	371	1	~29
2017	7	10~11	道路を横切って工事をしていた際に、光引き込み線が道路上(約3m付近)に出ている状態の時にダンプ車両が走行してきて、引き込み線をひっかけられ、被災者は電柱より転落した。	65	371	1	~29
2017	7	15~16	事業所より、同僚が運転する乗用車にて帰宅中、被災者の体が揺れだし、手元も震えだしたため、救急車を手配した。	39	715	11	1~9
			通信線現場調査終了後、高所作業車から降車時、バケット部から				30

2017	7	16~17	(2.0m付近)足を滑らせ、転落し、負傷した。当時、雨が降っていて滑りやすい状況だった。	35	146	1	~ 49
2017	7	7~8	会社敷地内のヤードにて、周囲が斜面になっている場所で草刈り作業中に約7メートル下の道路に草刈機ごと落下した。方向転換しようとする向きを変えた時に、足を滑らせた。	65	416	1	~ 29
2017	7	9~10	主催によるレールボンド溶着作業技能講習会において、レール研磨中にレール研磨盤砥石が突然割れその破片が側にいた受講生の本人の右額部に当たり負傷した。頭部外傷右前額部割創と診断され、全治10日、処置後帰宅した。	33	153	4	30 ~ 49
2017	7	14~15	通信線を新たに設置する工事の準備で通信線を引っ張るための金車を取り付け延線ロープを金車に通していた。ロープを車両で張り上げている途中で金車を固定していたバンドが破断し、同柱で作業をしていた被災者の顔面左側こめかみ付近に直撃した。破断したバンドはケーブルをまとめるものであり金車を固定するものでなかった。通常はスリングやワイヤーを使用すべきところを扱いやすいことから今回破断したバンドを使用してしまった。	48	529	4	10 ~ 29
2017	7	13~14	工場内で塗装作業中に養生鉄板で保護していたのを忘れ、後にしゃがもうとした時に尿道付近を強くぶつけてしまった。	22	521	3	10 ~ 29
2017	7	13~14	現場調査中に線路脇でメモを取っていた際、列車見張り員より列車接近待避合図があり、移動しようとしたところ、体勢を崩し足を滑らせて、コンクリートの壁に頭部から接触した。ヘルメットにより頭部は保護されたが、壁に鋭利な突起箇所があり、ちょうど接触箇所であったため、左耳を裂傷し、左耳を20針縫う怪我を負った。	32	417	2	50 ~ 99
2017	7	3~4	取替作業等に従事し、作業が終了したので設置パンタグラフ支持枠から作業床に降りる際に体勢を崩し、接地パンタグラフに手をかけた瞬間、接地パンタグラフが自動降下し、支持枠にかけていた右足指先が接地パンタグラフ支持枠と架台との間に挟まれ、受傷した。	43	149	7	300 ~ 499

2017	7	9～ 10	被災者は、作業長・作業副長とTBM-RKY後、電柱の抜柱作業に着手した。電柱に玉掛けワイヤーを取り付け、建柱車にて吊り上げ、同時に抜柱機にて電柱を地際から60cm程度浮かせたが、電柱が抜けなかったため、玉掛けワイヤー位置の変更と抜柱機の取付替えを行った。オペレーターは電柱を軽く揺さぶり、沈み込みの無いことを確認し、建柱車のウインチを緩めた。その後、被災者は玉掛けワイヤーを電柱の正規の吊り位置に変更するため、新設柱側から昇柱し、玉掛けワイヤーを付け直し、建柱車フックに引っ掛けて位置合わせをしているときに、電柱が40cm程度ずれ落ち、電柱と玉掛けワイヤーの間に指を挟まれ負傷した。	41	372	7	30 ～ 49
2017	7	9～ 10	住宅地の狭隘道路（市道）において通信引込線の張替え作業を行うため、高所作業車を車道に駐車し、作業を開始しようとした際、後方から来たゴミ収集車が高所作業車の横を通過出来そうになかったため、被災者が高所作業車を移動させようと運転席に向けて車道の側溝の上を歩いていたとき、側溝の蓋（グレーチング）が側溝の中に落ちると同時に足を取られ、側溝に足を落して被災した。側溝の現場打ちのコンクリート製で蓋（グレーチング）がきっちりと噛み合う構造にはなっておらず、中に落ちやすい状態になっていたと推定される。	65	417	1	10 ～ 29
2017	7	15～ 16	小学校の庭園内を架空する電灯線が植栽と接近接触しているのを、伐採して離隔する作業中、庭園内地上にて、伐採した枝をゴミ袋に入れる際、細かく切断するため電動丸ノコを使用した。その際、丸ノコの使用を誤り、右手首を切傷した。	38	131	8	1～ 9
2017	7	12～ 13	被災者は、現場事務所内にある資材置場で、廃材ケーブルの引取撤去作業に立ち会っていた。引取業者に対して安全指導を行い、作業終了後の打ち合わせを行っていたとき、突然倒れた。	57	921	90	10 ～ 29
2017	7	14～	通信用管路新設工事において、道路仮舗装施工時（転圧作業中）に、後退してきたバックホウのキャタピラに左足踵を挟まれ負傷し	34	142	7	1～

		15	た。					9
2017	7	11~ 12	高所作業車（バケット車）に乗り、架空地線と接地線を油圧圧縮器により接続する作業中、圧縮器で接続材（分岐スリーブ）を圧縮した際に、圧縮器のダイスが接続材に噛み込んだため、被災者は圧縮器操作スイッチをバケット内の操作盤上に置き、右手でダイスを外そうとした。そのとき何らかの理由で圧縮器が作動し、右手人差し指がダイスとシリンダに挟まれて負傷した。なお、手でダストを外そうとした際には、ブースターは「入」であった。	20	154	7	~	50 99
2017	7	19~ 20	2階の事務所から1階へ下りる階段（手摺り、滑り止め装備）の左側から1つ目の踊り場へ下り、2つ目の踊り場から1階への階段1段目を下りた付近で、ふとした拍子に体勢を崩し、尻もちをついた。	54	413	2	~	100 299
2017	9	10~ 11	会社敷地内（駐車場）でアウトリガーを出して停めてあった重柱車を作業先で使用するため操作部に昇って、アウトリガーを格納し、操作部より降りる際に、左手をタラップの端に掛けたが、手が滑り約1.5m下の地面に墜落し、右肘・右肩、腰を骨折した。	60	413	1	~	30 49
2017	9	16~ 17	新築のお宅で外から中への同軸ケーブルがない物件の為、空配管へ通線をしようとし、ケーブルを引っ張ったところ、断線し、その反動ではしごから落下し、踵との骨を骨折した。	31	371	1	1~	9
2017	9	13~ 14	送電線の電線張替作業において、当人が積載型トランククレーンの荷台に積んである資材と機材を下すため、玉掛けしようとして荷台に上がる際に足を滑らせ体勢を崩して転落し受傷した。	54	221	1	~	10 29
2017	9	13~ 14	脚立を使用し、車庫天井面の照明器具の取り替えを行っていたが、脚立の設置が不十分だった為脚立が倒れ、当事者も転落し、右手をついた時に今回の傷病となった。	64	371	1	1~	9
2017	9	11~ 12	営業部の3階のフロアにて、電話線工事のため天井面配線カバー取り付け中に脚立の留め金が外れ転倒し、右上腕部を骨折した。	66	371	1	1~	9
			本社内倉庫にて、片づけ・整理作業中、倉庫内に置いてあるケーブル					10

2017	9	21～ 22	ルドラム（約300kg）を移動させるため、手で方向転換させようと足に力を入れた際、右ふくらはぎに殴られたような衝撃があった。	45	921	19	～ 29
2017	9	11～ 12	社内にてマンホール開閉点検補修作業中、ローラー内部の残圧を抜きマンホールの蓋をチェンブロックにて落下防止し、ボルトを外したところ、ローラーと蓋とパッキンが強固に引っ付いていた為、バールやマイナスドライバーで取り外しを試みた瞬間、蓋が外れ、大量の温水が飛び出し、れ、左手甲に火傷を負い、同じ所にマンホールの蓋があたり皮がはがれた。	62	519	11	～ 49
2017	9	8～9	当日被災者は、工場内で配線盛替作業中、バランスを崩し脚立中段から飛び降り、左足から着地し、足首を捻り転倒負傷した。	69	371	3	1～ 9
2017	9	14～ 15	先方柱（鋼管）の太陽光発電新設電気設備工事現場に於いて引込口配管配線工事中、先方柱にパイプケーブルを設置する為先方柱にバンを横付けしバンの天井部分のキャリアの上で設置作業中身体のバランスが崩れ約2mの高さから落下し負傷したものである。	42	231	1	1～ 9
2017	9	9～ 10	原っぱ（私有地）内の自営柱K-18-4～K-18-6間の、既設ケーブル撤去ケプラーロープ張りの作業中、自営柱K-18-6の柱上でケプラーロープまでの布設が完了。ケプラーロープを自営柱へ縛りつけようとした時、当該自営柱が、地際付近で折れて転倒した、作業員は胴網・安全帯を使用していたため自営柱とともに転倒し、右脚が自営柱の下敷きになり骨折した。	57	418	5	10 ～ 29
2017	9	16～ 17	住宅新築工事で、電気配線をしている際、脚立から降り着地したとき、地面に置いていた材料を踏んでしまい、左足をひねり、骨折した。	24	416	19	1～ 9
2017	9	14～ 15	自社事務所前の三段階段で足をすべらせて転倒した際、左足を強打してじん帯が切れてしまった。（当時雨が降っており足元がすべりやすい状態であった。）	24	413	1	30 ～ 49
			小学校校舎改修電気設備工事の工事現場で、ケーブルグリップ（ア				

2017	9	10～ 11	ミス) とロープ及びケーブルウィンチを使用して、電気ハンドホール内の不要ケーブルの撤去作業時に、ケーブルウィンチの引っ張りによりロープが張り詰めて切れそうな状況となり、中止を指示しようとした矢先にケーブルグリップ (アミソ) が撤去作業中のケーブルより抜けて、伸びきったロープが縮んで、ケーブルグリップが被害者の左すねに直撃した。	37	379	6	1～ 9
2017	9	16～ 17	小学校の現場から会社に戻る途中の緩やかな左カーブの上り坂を走行中、センターラインをはみだし、対向車の10tダンプカーと正面衝突した、同僚の運転する軽ワゴン車の助手席に乗っていたが、怪我をして病院に運ばれた。	30	231	17	1～ 9
2017	9	16～ 17	小学校の現場から会社に戻る途中の緩やかな左カーブの上り坂を走行中、センターラインをはみだし、対向車の10tダンプカーと正面衝突した、被災労働者が軽ワゴン車を運転しており、救急クリニックに運ばれたが、約3時間後に死亡した。	21	231	17	1～ 9
2017	10	11～ 12	建設が元請のソーラーパネル設置現場で、別の人運転するフォークリフトの後部に乗って移動中、急発進した際に転落して腰の骨を折った。	33	222	1	10 ～ 29
2017	10	15～ 16	会社事務所1階倉庫にて、木材を電動丸のこで切断作業中、電動丸のこを左手で逆さに抑え右手で垂木を持ち作業を行った。その際、電動丸のこが右手方向へ弾じかれ、右手、第2指、第3指、第4指を切傷してしまった。	22	131	8	1～ 9
2017	10	15～ 16	屋上で、1人でテプラ貼り作業中、目にゴミが入った際、バランスを崩して1階まで転落し右腕を開放骨折した。	24	415	1	50 ～ 99
2017	10	18～ 19	社命により、会社の車庫に停めた車の荷台から台車 (巾80cm横60cm高さ10cm) を降ろす際誤って荷台と台車の間に左手小指を挟み負傷した。	41	362	7	—
			電気工事で、屋外の電気工事引込ポール (鉄製高さ5m地下1m) の				

2017	10	14~ 15	高さ1.8mに、はしごをかけて作業していた。ポールが古く根元が腐食しておりポールが根元から折れて倒れはじめたため、はしご6段目から飛び降りたところコンクリート地面に右足かかとを打った。安全靴は着用していた。	28	418	1	10 ~ 29
2017	10	11~ 12	会社の資材置場でゴミ（配管材）を細かく切る際に結束してあるビニールテープを切ろうとして、切ったと同じに左手親指まで切ってしまった。（現場の特定しない事務作業であった。）	34	364	8	1~ 9
2017	10	10~ 11	弊社2番倉庫内において材料の荷受を行っている際に、材料を置くためにダンボールを敷く事になり、不要ダンボールを持ち出すため、搬入済の荷物（ダンボール入り）の奥へ手をのばして取ろうとして、左側の肋骨がダンボールに押し当たったため、負傷した。	43	611	3	100 ~ 299
2017	10	10~ 11	被災者は1人で交通信号機保守管理業務に従事していた。点検すべき信号機のある現場に車で向かっていたところ、交差点にて、不注意から停車中のコンテナトラックに後ろから衝突して骨折した。	22	231	17	30 ~ 49
2017	10	15~ 16	機械上からステップを使用して、後ろ向きに降りる時に最下段のステップを踏み外して転倒、左大腿骨を強打し、左大腿骨を骨折した。	64	371	1	1~ 9
2017	10	17~ 18	自社内の倉庫にある鉄板（1,500×3,000・1枚当たり約880kg）の保管場所を変更するため、4tユニック車で鉄板を吊り上げ、移動させる作業を行っていた。その荷降ろし場所で、鉄板位置の微調整を行うために、鉄板と地面の間に手をかけたところ、突然鉄板が傾き、指を挟まれ被災した。	38	229	7	10 ~ 29
2017	10	10~ 11	被災者は機器点検修繕工事に従事していた。遮断機操作拍のゴムパッキン取り替え工事に着手。ゴムパッキンを剥がし、残ったボンドをアルコールで清掃除去するための容器の内蓋をカッターナイフで十字に切り目を入れようとした際カッターナイフが根元から折れ、左手親指付根を負傷した。	21	364	8	300 ~ 499

2017	10	13～ 14	立ち馬での作業時、幹線の配線作業が終わり立ち馬から降りようとした時に足をふみはずし、立ち馬の段差部を頭から滑り落ちるよう に転落した。肋骨3本骨折した。	42	411	1	～ 29	10
2017	10	10～ 11	被災者は土間配筋内の配管状況確認で配筋上を移動中、足を踏み外 して前方に倒れ込みながら、左手を突いたところ手首を負傷した。 被災者は通常、会社で工事事務を担当しているが、当日は応援で配 管状況の点検のため現場に入った。点検で取り付け変更等が必要な 部分を発見した場合は、現場代理人に連絡し外注業者が施工するの で、当日の業務には作業はない。	28	416	2	～ 299	100
2017	10	15～ 16	現場作業員からの要請により取り付け機器の代替品を配送後、事務 所へ帰社する途中の緩やかな左カーブにおいて、ブレーキを踏んだ が間に合わず相手車両と衝突した。	21	231	17	～ 499	300
2017	10	7～8	会社駐車場にて、駐車してあった会社所有の車両を効率よく動か せる様に、駐車位置を調整しようとして1台の車両に乗車し発進させ ようとしたところ、ギアがバックに入っていた。会社駐車場に隣接す る外部敷地に脱輪する形で進入してため、その車両を引き上げよう とワイヤーで牽引する他の会社車両のサポートをするために、被災 者が自ら脱輪した車両の後部にまわり車両を持ち上げようとして腰 を痛めた。当日は午前中はそのまま勤務し、午後から様子を見るた め帰宅したが、被災者自身の感覚ではそこまで痛みがなかった。第 11胸椎圧迫骨折と診断されたもの。	45	221	19	～ 49	30
2017	10	20～ 21	山の中で現場作業終了後、社有車にて現場事務所へ帰る途中で、忘 れ物（レーザー距離計）があることに気づき、現場に引き返した。 忘れ物を持ち、暗い林道を小走りで社有車へ戻る途中、草もしくは 転石につま+C1:C38ずき転倒し、右足くるぶし部を骨折した。	27	719	2	～ 29	10
2017	10	11～	電柱建て替え現場で、宅内引き込み線を外して新柱に移設する作業 の際、引き込み線のあるところにハシゴを掛け、その引き込み線を 外してハシゴから下りるときに、そのハシゴが揺れて倒れそうに	49	371	1	～	50

		12	なったので1.5mから2mぐらいのところから飛び降りた。そのとき左足から着地し踵を骨折した。					99
2017	11	14～ 15	3tダンプ上での作業完了後、ダンプの荷台から降りようとした際、着地が不安定になり左足首を負傷した。	48	221	3	10 ～ 29	
2017	11	14～ 15	停電し、電柱上部にある碍子を外す作業を行う為、昇柱している途中で、高さ7～8m位の高さに達して、作業を開始しようとした時、道路の法面に落下し腰を痛めた。安全帯は装着していたが、落下した際に外れたようである。	47	418	1	10 ～ 29	
2017	11	13～ 14	現場敷地内の電柱を地面にユニック車で降ろす際に、吊っていた電柱が煽られ被害者の腕がユニック車のアウトリガーと電柱の間に挟まり左腕を骨折、裂傷した。	52	212	7	30 ～ 49	
2017	11	10～ 11	病院において平屋建ての屋根上の清掃作業中、梯子を使用して降りるところ転落した。頭部を地面に強打した。	63	711	2	1～ 9	
2017	11	10～ 11	病室にて、床にスタッフと共に転倒している患者をベッドに戻そうとしている時に、そのスタッフに、ベッドに戻すための力が足りなく1人で戻す状態になり、腰痛が出現した。	73	142	6	1～ 9	
2017	11	11～ 12	個人宅電気工事において、使用する換気扇のダクトを作業場で切っていたところ、誤って手を滑らせ右手親指を負傷した。	73	159	8	1～ 9	
2017	11	15～ 16	鉄道軌道脇で、現地確認作業を行っている時、列車接近によりトラフ上で退避を行った。列車通過後、トラフ上から軌道側へ移動する時に、足を滑らせ、左膝辺りを負傷した。	62	419	2	50 ～ 99	
2017	11	23～ 24	現場である道路のケーブルを撤去作業中、撤去したケーブルを両手に持ってトラックに積む際に縁石に躓き転んでしまった。痛みはあったが、その日も仕事をし、何日か様子を見たが、痛みと腫れがひかず病院へ行った。	37	418	2	1～ 9	
			小学校改修工事において、現場確認のため、体育館内に入る際、ス					

2017	11	10～ 11	ロープ状に設置してあるアルミ製の足場板を踏んだところ、足場板が跳ね上がり、左手に強打し、負傷したものである。	38	417	2	1～ 9
2017	11	14～ 15	製作所における工場内のセキュリティシステムの機器増設工事に際し、鉄柱に配線するため脚立（全長1.8m）に登り、天板を跨ぎ作業していたところ、体の重心を移動した時に脚立の脚部がずれた（床が油で滑り易かった模様）ことから、体のバランスが崩れ約1.7m下の床面に落下した。床面には段差や消火器があり、消火器に当たったことなどで、足の一部に大きな衝撃が加わり、左足くるぶしの骨折を負ったものである。	42	371	1	10 ～ 29
2017	11	9～ 10	国道にて片側交互通行の作業中、停車させていた車両の通行を開始させ、1台目が規制帯を通過した後、2台目の車両が工事帯をめぐり直進し、作業帯内にいた被災者を撥ね、ボンネットに乗せたまま15m程進んだところで停車した。尚、加害者は居眠り運転であった。	44	231	17	10 ～ 29
2017	11	12～ 13	出社の為、駐車場に自家用車を止め歩行中、後方から接近する車の音で自分に近付いてくるように感じ、咄嗟に左側に避けた際、側溝に左足を落とした。	43	417	1	50 ～ 99
2017	11	15～ 16	倉庫内作業場で、電線を持って歩いて転倒して、骨折した。	54	417	2	1～ 9
2017	11	14～ 15	当社倉庫内において、三脚脚立に上がって高い所にある物を取っていたところ、バランスを崩して地面に右手をついた。その時に右手に痛みがあったので、しばらく作業を中断し安静にしていたが、痛みが緩和されないので、早退し受診した。	59	371	1	10 ～ 29
2017	11	16～ 17	太陽光発電工事現場で排出されたアスファルト殻を廃棄処理業社に向かって運搬中、道路横断側溝の道路と側溝の段差で車が上下に弾み、コントロールを失い、路肩から1m下の側溝に滑り落ち、農道とT字路との角に突き当たり負傷した。	63	221	17	1～ 9
			倉庫内のセキュリティ工事において、150cmの脚立の120cmの踏棧で				

2017	11	17~ 18	配線作業が終わり、1段下りる際、脚立のバランスが崩れ、脚立が転倒、本人は転落し、座骨骨折と診断された。床面にでこぼこがあり、足元が不安定になる可能性がある中、はさみ板かマット等での足元安定の措置を図らず、ヘルメット未装着であった。	24	371	1	10 ~ 29
2017	11	9~ 10	工場構内にて、ケーブル導通試験を実施し、配線チェッカーを配電盤内サーマルリレーに取り付けなければならないところを、誤ってブレーカー一次側に接触させ短絡アークにより両目を火傷した。	32	352	12	10 ~ 29
2017	11	16~ 17	自社電気工事において、資材を持ち、階段を下りていたところ、足を滑らせ、2階から1階まで階段を滑り落ち、左右手首骨折、打撲をした。	42	413	2	10 ~ 29
2017	11	13~ 14	送電線鉄塔基礎用深礎基礎鉄筋組立作業において、主筋吊込作業中、作業員Aは介錯を行うため、墜落防止器（ヘルパック）を使用し、中間に入り胴網を鉄筋固定金具へ取り付けた。吊荷の介錯をする際、胴網に荷重がかかり鉄筋固定金具が主筋から外れ0.5mほど墜落し宙づり状態となった。その際に鉄筋、ライナープレートで右手を強打し、右手を痛めた。	52	419	1	10 ~ 29
2017	11	15~ 16	資材の搬出作業で現場階段を2Fから1Fへ降りる際に、最後の1段を誤って、バランスを崩し、よろけてそこに組まれていた足場鋼管に左脇をぶつけた。	57	413	3	30 ~ 49
2017	12	8~9	仮設天井（養生用）裏にて、仮設照明器具を撤去後、電線の引き抜き作業中に仮設天井に足をかけたところ踏み抜いて、2.8m位の高さより地上に落下し被災した。	62	419	1	10 ~ 29
2017	12	14~15	お客様宅にて、建物の外壁にはしごをかけて、ケーブルテレビの保安器の交換作業をしているときに、はしごの脚（接地面）が滑り、はしごの1mの高さから、はしごごと一緒に落下して、右腕の肘を脱臼骨折した。	45	371	1	1~ 9
2017	12	14~15	自社倉庫で、中二階にある作業ロープを片付け中、誤って養生部分を踏み抜いて転落し（1.5m位）、一階床に置いてある電線ドラムの	59	418	1	1~

			上に腰を打ち、腰を負傷した（ヘルメットあり）。				9
2017	12	18~19	社屋入口と駐車スペース間の段差がある所で、ふらつき倒れる際に車に頭をぶつけ、右肩を下にして倒れた。	41	413	2	1~ 9
2017	12	18~19	事業所倉庫内に於いて、翌日の現場（太陽光発電工事）の準備作業中、現場用の工具を揃えている時、棚から圧着工具が右足に落ち負傷したものである。	35	364	4	10 ~ 29
2017	12	17~18	被災労働者は、倉庫で棚に置いた道具や工具類の整理整頓と掃除の最中、棚上段（高さ2m弱）から道具（重量物）を下ろす際に脚立（高さ1m程）を使い、右足を脚立のステップに乗せ左足を棚に掛けた体勢で行った。道具を引き抜いた拍子に脚立が地面にあった大きな砂利小石にぐらつき、仰け反りそうになり飛び降りた。飛び降りた足元にドラムジャッキ（鉄製）があり、左足ふくらはぎが先端に接触し、痛みを覚え通院した。	25	419	3	30 ~ 49
2017	12	9~10	当社倉庫内において、年末の片付け作業中、梯子に乗り棚の掃除を行い、梯子から下りる際に、5段目辺り（高さ約5m）で足が滑り、飛び降りようとしたところ、背中より落下し頭部と背中を打ち負傷したものである。	53	371	1	10 ~ 29
2017	12	14~15	当日の業務で、CCTVカメラ取付作業を終了し、帰社のため下り線を運転走行中、運転操作を誤り反対車線に飛び出した。上り線のガードレールにぶつかり180度回転したところ、上り線を走行していた車運搬用トラック（キャリアカー）に後ろから衝突され負傷した。	19	231	17	50 ~ 99
2017	12	17~18	作業終了後、会社倉庫の整理のため、車から材料の入った段ボール箱（約300×400×200、約5kg）を持って歩いていた際、倉庫出入口付近で誤って躓き転倒し、その際に右足首を捻った。	51	921	2	1~ 9
			電力柱でCATVケーブルの引き込み工事の際、電柱への昇柱時、右手は電柱足場ボルトに、左手はCATVケーブルの吊線に触れたとき、足場ボルトケーブル吊線から手が離れ、6m下の道路へ落下し、腰と頭				50

2017	12	11~12	を強打した。落下時、低圧引き込み線ケーブル充電部が右手のあった足場ボルトに触れていたため、感電によるショックで手が離れ、落下したと予想される。なお、電柱への昇柱時には安全帯・補助安全帯の使用はなく、作業時に安全帯を使用する予定であった。	42	351	1	~ 99
------	----	-------	--	----	-----	---	---------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html